卒業論文

みやげ文化と若者

2010年度入学

九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース 社会学・地域福祉社会学専門分野

2015年1月 提出

本論文の目的は、日本におけるみやげ文化の変容が特に現代の若者のあいだでどのよう に行われているか、その実態を明らかにすることである。

みやげを含む贈答は時代や洋の東西を問わず、人々によって広く行われている行為である。その中で、現代の日本社会は先進諸国の中でも贈答儀礼をよく保存している社会のうちのひとつであり、慣例的また個人的な贈答が一般的になっている。一方で、贈答を取り巻く環境は変化してきている。そこで、慣習として特定の機会に行われている贈答ではなく、自由なコミュニケーション手段としてのみやげ贈答行動は社会でどのような役割を果たしているのかに注目した。特に、伝統から比較的自由であると考えられる若者の贈答に関する現状を把握し、そこでの課題を検討することで今後の日本社会での贈答のありかた、ひいては人間関係のありかたの変容を考える手がかりするべく本論文の執筆にあたった。

第1章では、みやげについて論ずるにあたり、贈答という行為全体がこれまでどのように解釈されてきたのかをまとめている。マルセル・モースの『贈与論』に代表されるように、贈与交換は社会科学において古典的なテーマである。ここでは、モースが唱えた贈与に関する3つの義務を参照しながら、みやげについて考察している。続いて、日本の贈答文化の特徴についてふれ、明治時代に始まったとされる贈答廃止に関する動きにも言及した。さらに、高齢者を対象におこなった事前調査についても記述している。

第2章では、本研究の対象であるみやげの交換という生活様式がこれまでどのように捉えられてきたのかを把握するため、様々な分野からの先行研究やデータを示している。そのなかで、みやげの語源やスーベニアとの概念の違い、また観光学の見地からのマッカネルの議論などを整理している。また、みやげ文化は日本古来のムラ的なつながり意識や会社文化とも深く関わっていることを指摘している。

第3章では、若者と贈答行動の関係性ついて、コミュニケーションの研究や若者と旅行に関するデータから考察している。現代の若者は友人関係が希薄化し、また、外集団に対する寛容性が低いとされている先行研究に着目し、その議論とみやげの関係を描き出そうとしている。

第 4 章では、改めて本研究の目的について述べ、先行研究をもとに仮説を設定している。 日本人にとって旅行は一般的なものとなっており、その土地で生産された物を持って帰る もの、つまり土産(どさん)としてのみやげの意味は薄れたと言える。そこで現代の若者 はみやげに新しい意味づけをしていると考えられる。また、現代ではSNSの普及により、 共有できるものや機会は増えた。そのため、以前はみやげという物に込められていた、経験を共有するという意識は薄れ、コミュニケーションの潤滑油という意味づけが強くなっていると推測される。さらに、若者の友人関係はより選択的になってきている。よって、 オフィシャルな場である職場においては、人間関係の構築のためというよりはそこで無難に生き残るためにみやげをツールとして使っていると考えられる。このような仮説のもと、 調査対象を九州大学の学生とその卒業生とし、インタビュー結果を分析している。そこでは、コミュニケーションツールとしてはもちろん、さらには自分の存在を承認してもらうためにみやげを巧みに使っている若者の姿などが明らかになった。

第5章では、まとめと今後の展望を述べて本論文を締めくくっている。

目次

け	じ	めに.		1
1	則	曾答行	f動に関する議論	2
	1.1	1 贈	答文化の背景	2
		1.1.1	贈与と交換に関する基本概念	2
		1.1.2	贈答廃止に関する動き	4
	1.2	2	「モノ媒介コミュニケーション」としての贈与	5
	1.5	3 贈	り物に見るアイデンティティ表象	6
	1.4	4 高	齢者の贈答に関する観察とインタビュー	6
		1.4.1	観察の記録	7
		1.4.2	インタビューのまとめ	8
2.	à	みやり	ずに関する議論	9
	2.1	1 観	光学的見地からのみやげ	9
	2.2	2 み	やげとスーベニア	9
	2.3	3 デ	· イーン・マッカネルの議論	LO
	2.4	4 日	本におけるみやげ購入	11
	2.5	5 現	代日本におけるみやげの課題1	12
	2.6	3 職	:場でのみやげ交換に関する新聞記事1	15
3. 現代の若者の特徴				
	3.1	1 若	:者の人間関係	L7
	3.2	2 若	:者の旅行の頻度1	18
	3.3	3 若	: 者のみやげ品購入の現状1	18
4.	Ē	若者の	の贈答行動に関する調査2	20
	4.1	1	査の目的2	20
	4.2	2 仮	:武	20
	4.3	3 調3	查対象	20
	4.4	4 若	: 者に対するインタビュー調査2	21
		4.4.1	A の場合	21
		4.4.2	B の場合	23
		4.4.3	C の場合	23

4.4.4 D の場合	25
4.5 考察	27
5. まとめと今後の展望	29
参考文献	30
あとがき	. 32
付録:インタビューの記録	. 33